

住民主体の活動と協議体

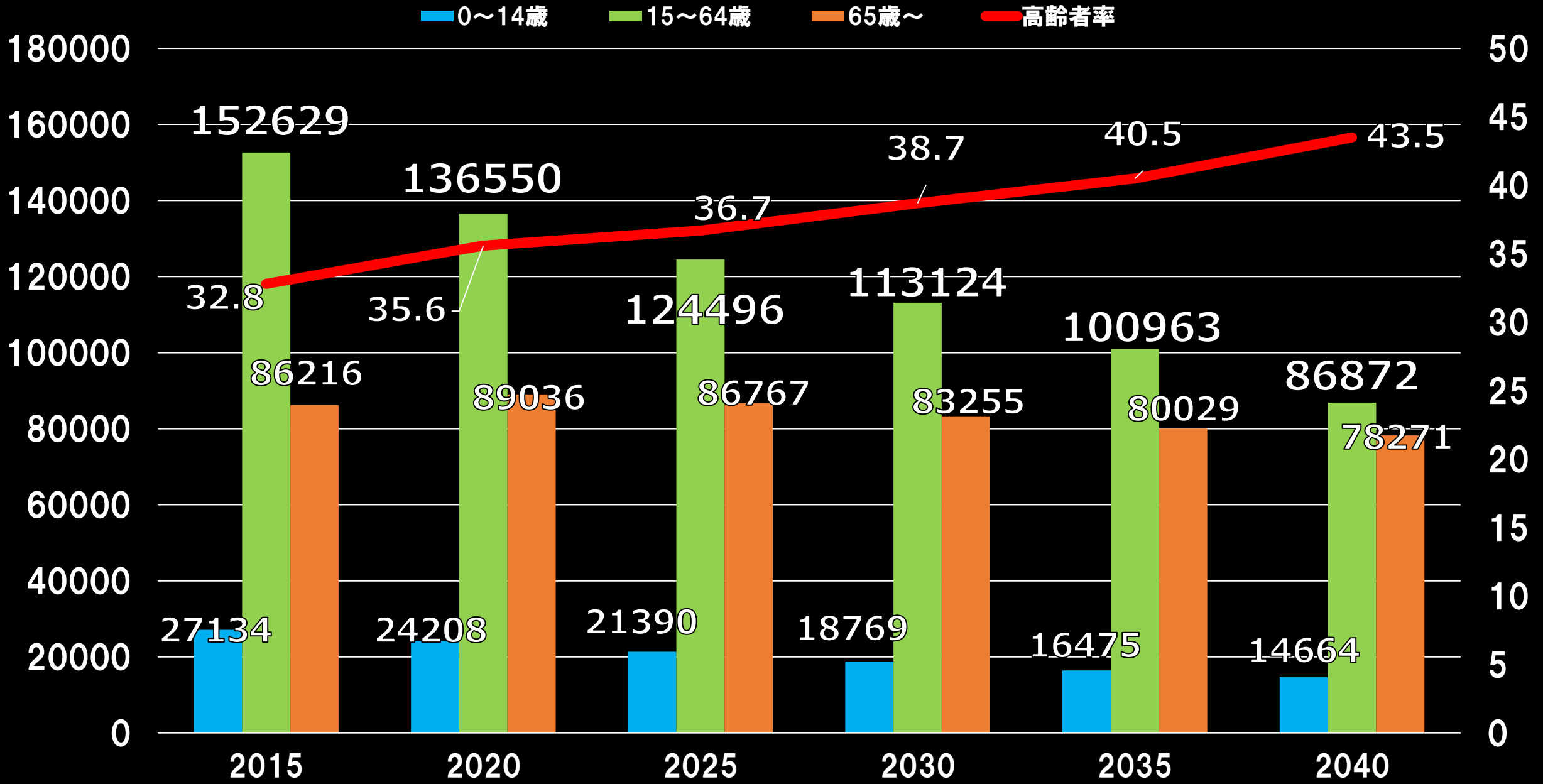
生活支援コーディネーター（1層）

丸藤 競

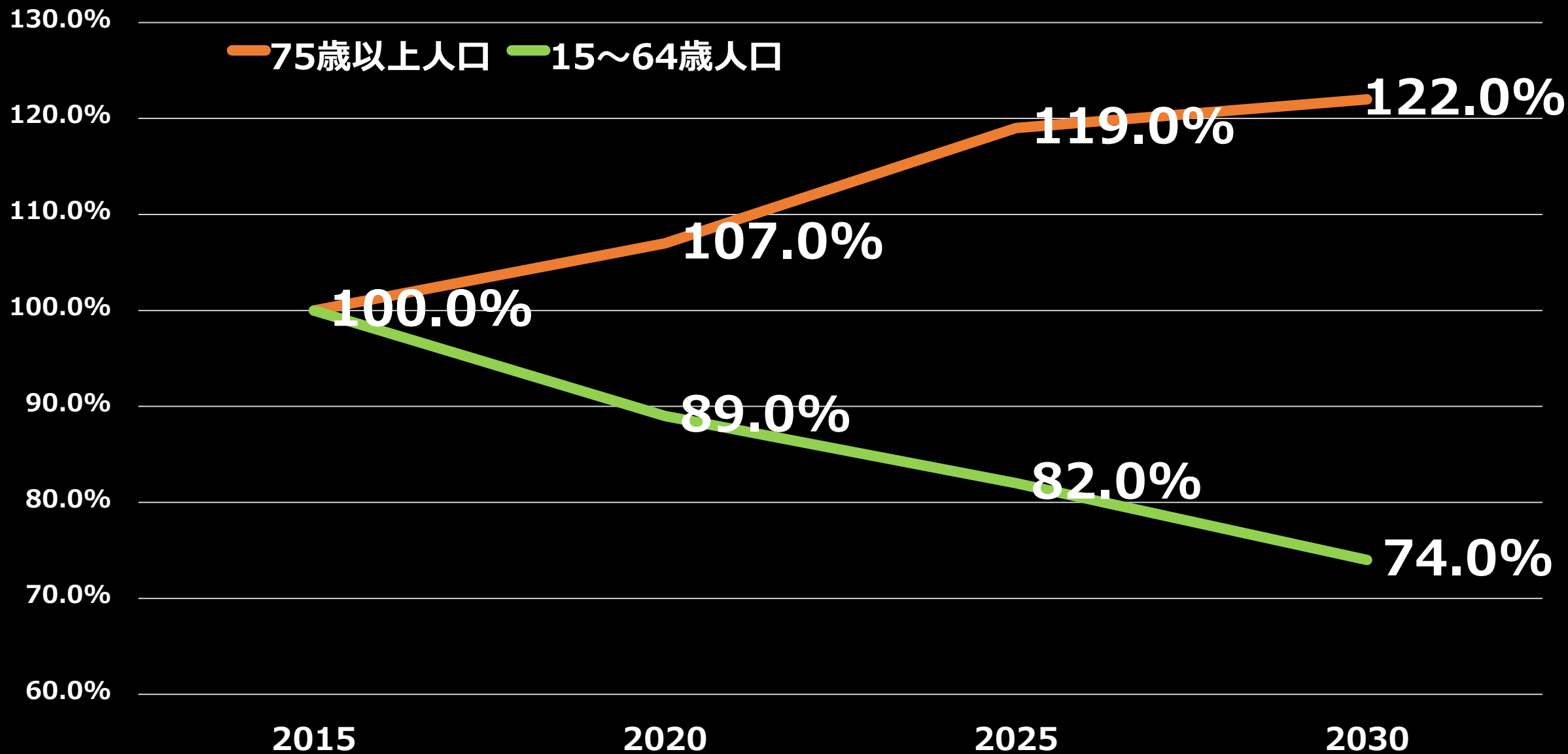
函館市のこれから

	2015	2020	2025	2030	2035	2040
計 (2015年比)	265,979	249,794 ▲6%	232,635 ▲13%	215,148 ▲19%	197,467 ▲26%	179,807 ▲32%
0～14歳 (2015年比)	27,134	24,208 ▲11%	21,390 ▲21%	18,769 ▲31%	16,475 ▲39%	14,664 ▲46%
15～64歳 (A) (2015年比)	152,629	136,550 ▲11%	124,496 ▲18%	113,124 ▲26%	100,963 ▲34%	86,872 ▲43%
65歳～ (2015年比) 高齢者率	86,216 32.8%	89,036 +3% 35.6%	86,767 +1% 36.7%	83,255 ▲3% 38.7%	80,029 ▲7% 40.5%	78,271 ▲9% 43.5%
A÷B	3.6人	3.0人	2.4人	2.2人	2.0人	1.9人
75歳～(B) (2015年比)	42,829	45,680 +7%	51,109 +19%	52,376 +22%	49,676 +16%	46,387 +8%

函館市はこれからこうなる！

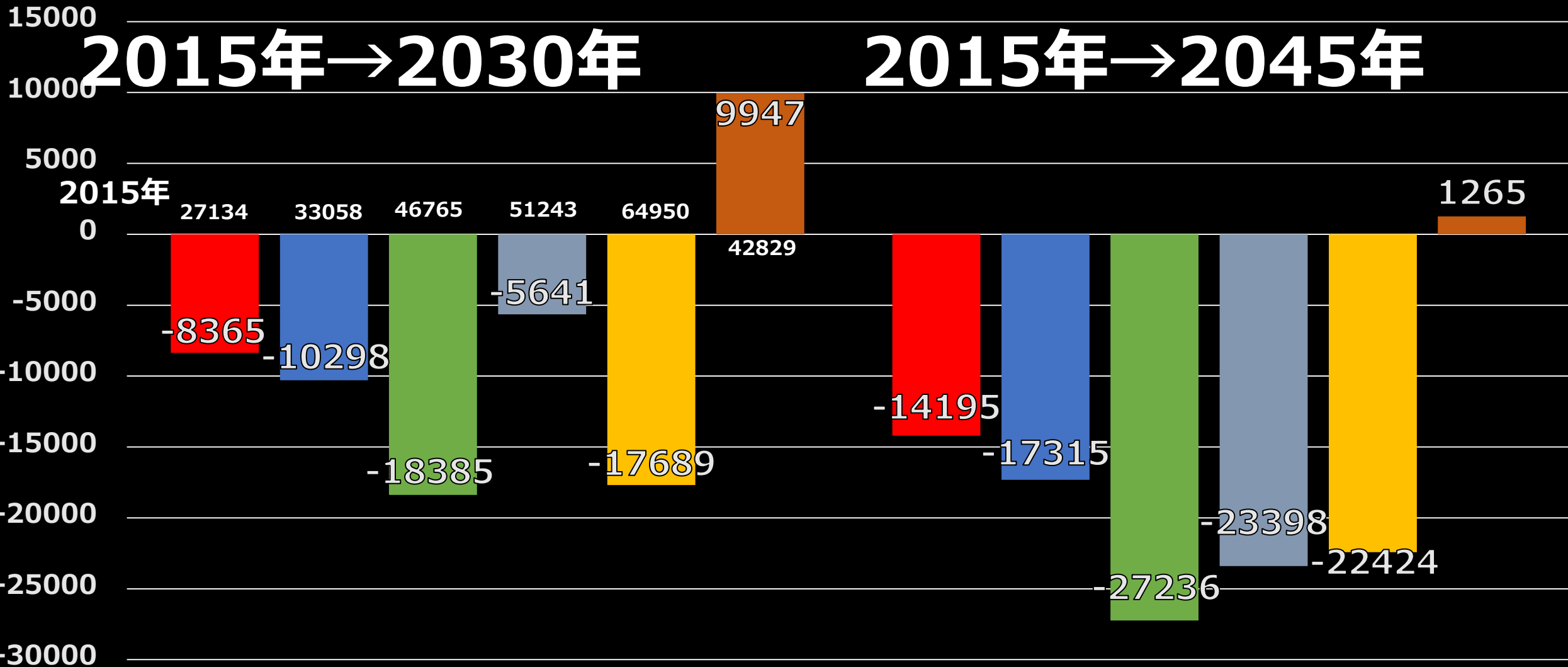


函館市の人口推移 75歳以上と15~64歳編

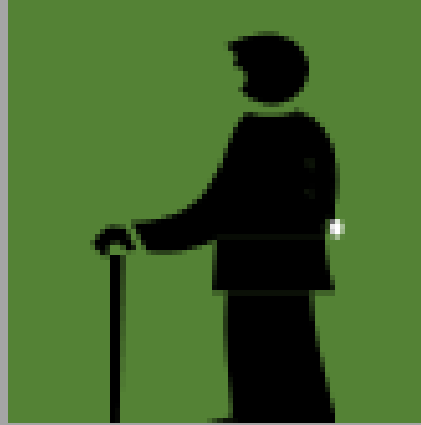


函館市の年齢別人口変化

■ 0~14歳 ■ 15~29歳 ■ 30~44歳 ■ 45~59歳 ■ 60~74歳 ■ 75歳以上



函館市



介護が必要な高齢者

支えたり、
助けたりする人

介護予防

二刀流！

生活支援

危機的状況を乗り越えるには・・・

- ① みんなが社会参加することで、
ずっと元気である (介護予防)
- ② みんなが、助け合い支え合う (生活支援)

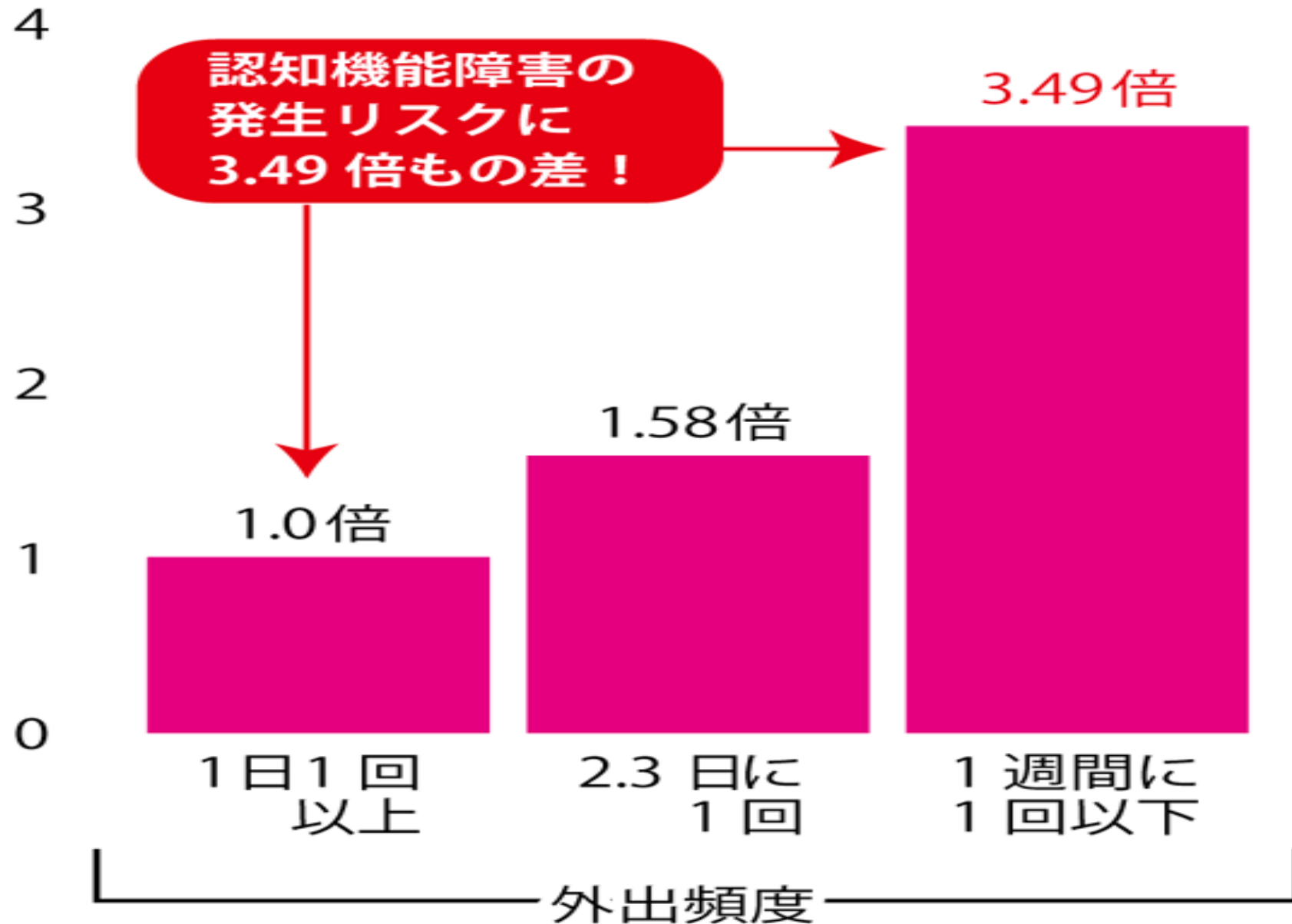
「二刀流」 しかない！

みんなが社会参加することで
ずっと元気である。

→介護予防

二刀流その1

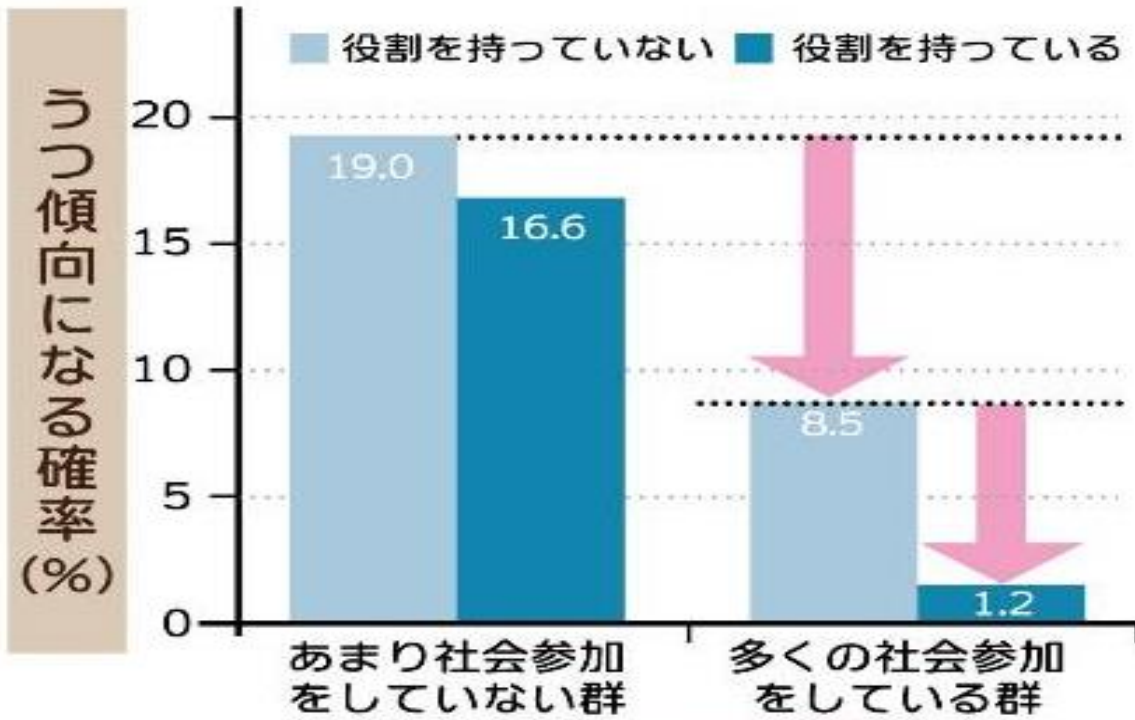
認知機能障害の発生リスク
(2年間の追跡)



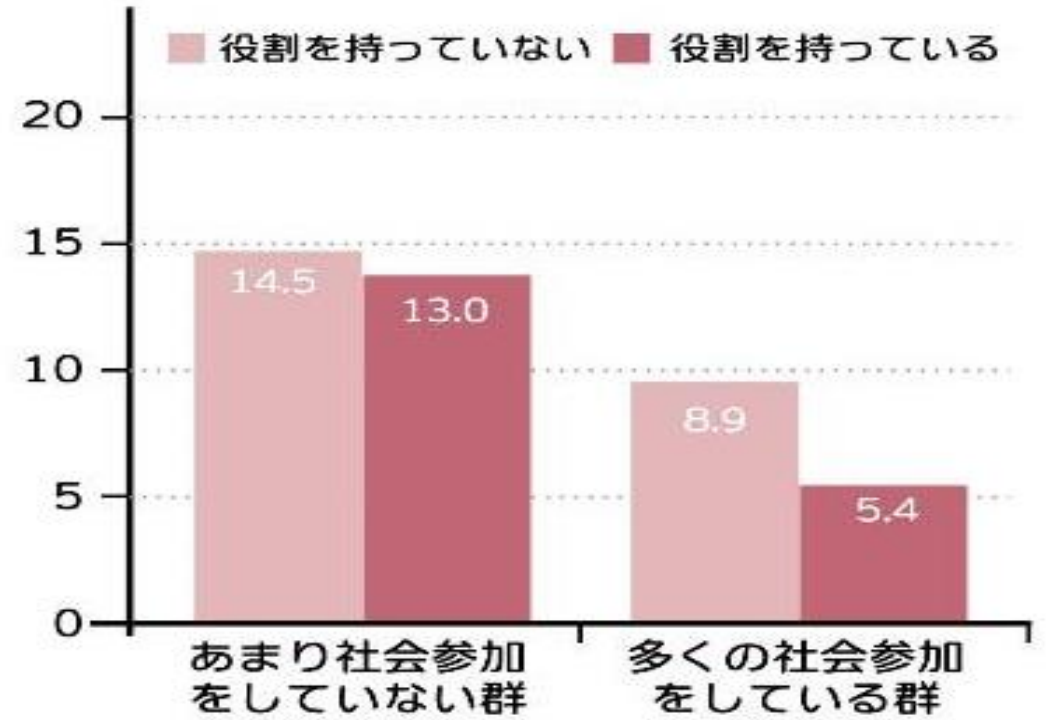
役割を担って

社会参加している男性はうつ発症リスクが7分の1

AGES 2003 年調査時点でうつ傾向が無く、2006 調査にも回答した 65 歳以上の 2728 人



男性



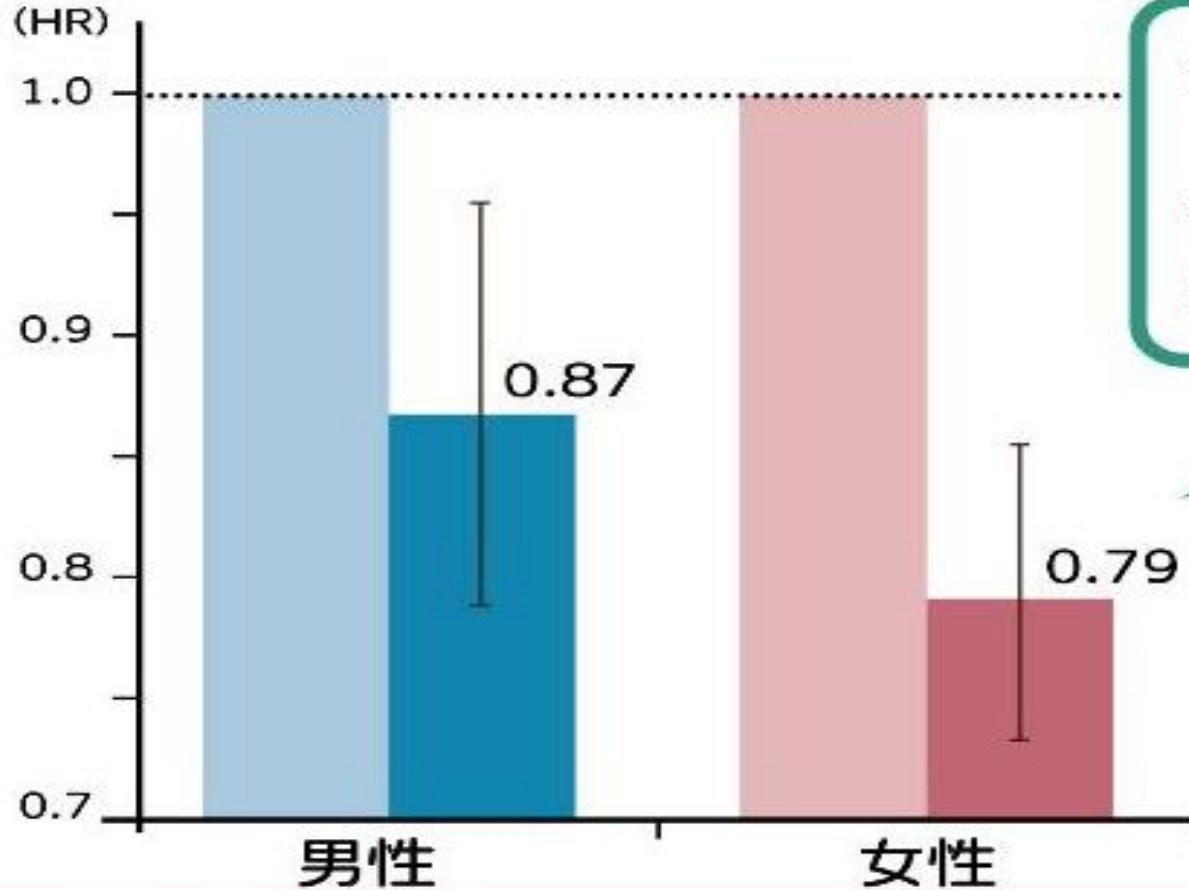
女性

趣味、スポーツ、町内会、ボランティア、老人クラブ、業界、宗教、政治のグループへの参加をたずね、主成分分析で社会参加得点を算出

前向き感情で認知症リスクが半減

幸福感や満足感など前向きな感情を強く持つ人ほど認知症に至っていない

前向きな感情得点（0～5点）が1点上がるごとの認知症リスク



前向きな感情に「はい」と答えた項目が1つ増えるごとに、その後の認知症を伴う要介護認定を受けるリスクが、男性で13%、女性で21%低い。

すべてに「はい」では男性でおよそ50%、女性で70%のリスクが減少

年齢、既往歴、身体機能、保健行動、婚姻状態、世帯構成、社会参加、修学年数を調整した結果

4年間のコホートデータを使用。約14000人を解析した結果。

これからの介護予防



社会参加の促進による介護予防

介護予防

地域活動

ボランティア

就労

ご近所のサポート

社会参加



みんなが、
助け合い支え合う。

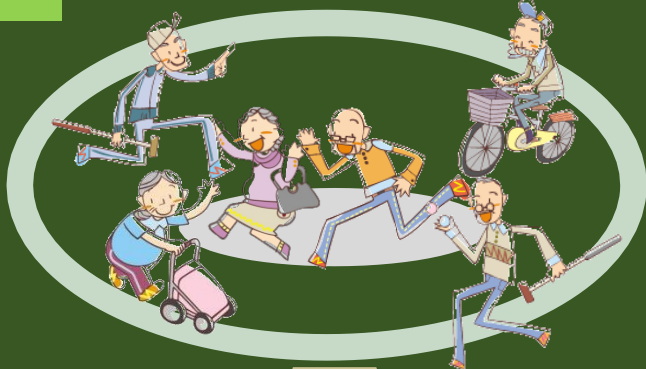
→生活支援

二刀流その2

地域生活は専門職だけでは支えられないーご近所からボランティア、専門職までみんなで支える

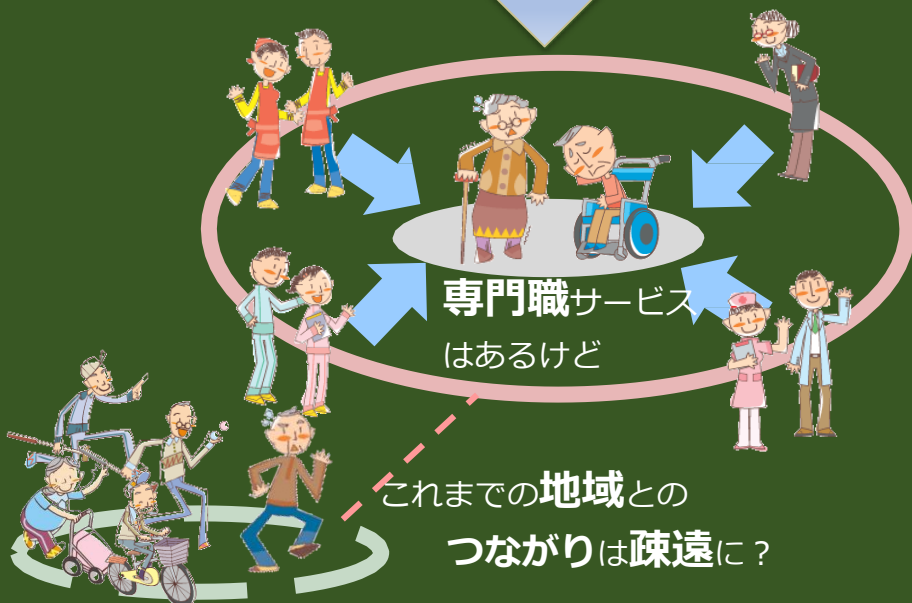
現状の課題

友人・隣人との交流



支援や介護が必要になると、友人・隣人との関係は希薄になり、支援を受ける一方向の人間関係に変化

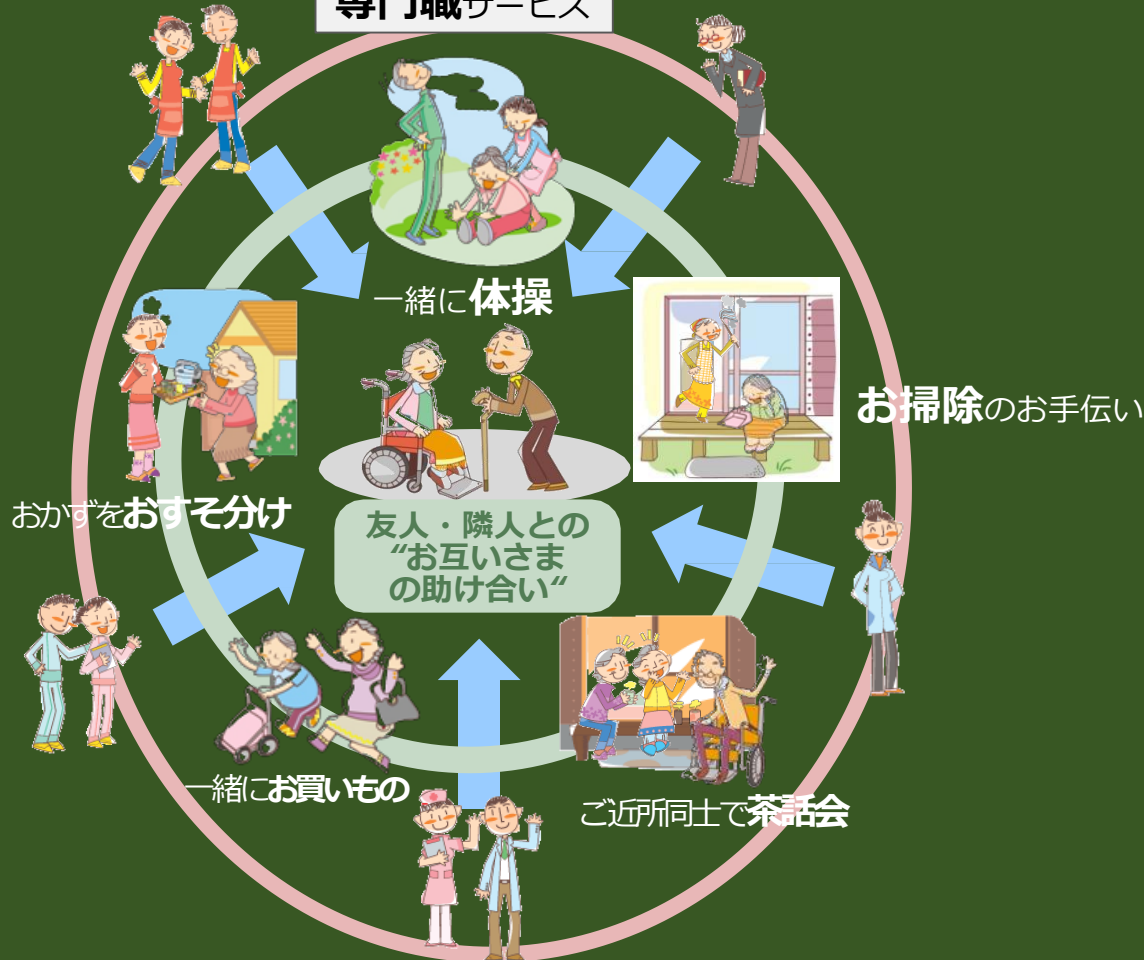
専門職サービス
はあるけど



これまでの地域との
つながりは疎遠に？

これから

専門職サービス



“お互いさまの助け合い”の輪を広げていくことで、支援や介護が必要になっても、地域社会の中から切り離されず、なじみの関係を継続できる

これまでの高齢者支援

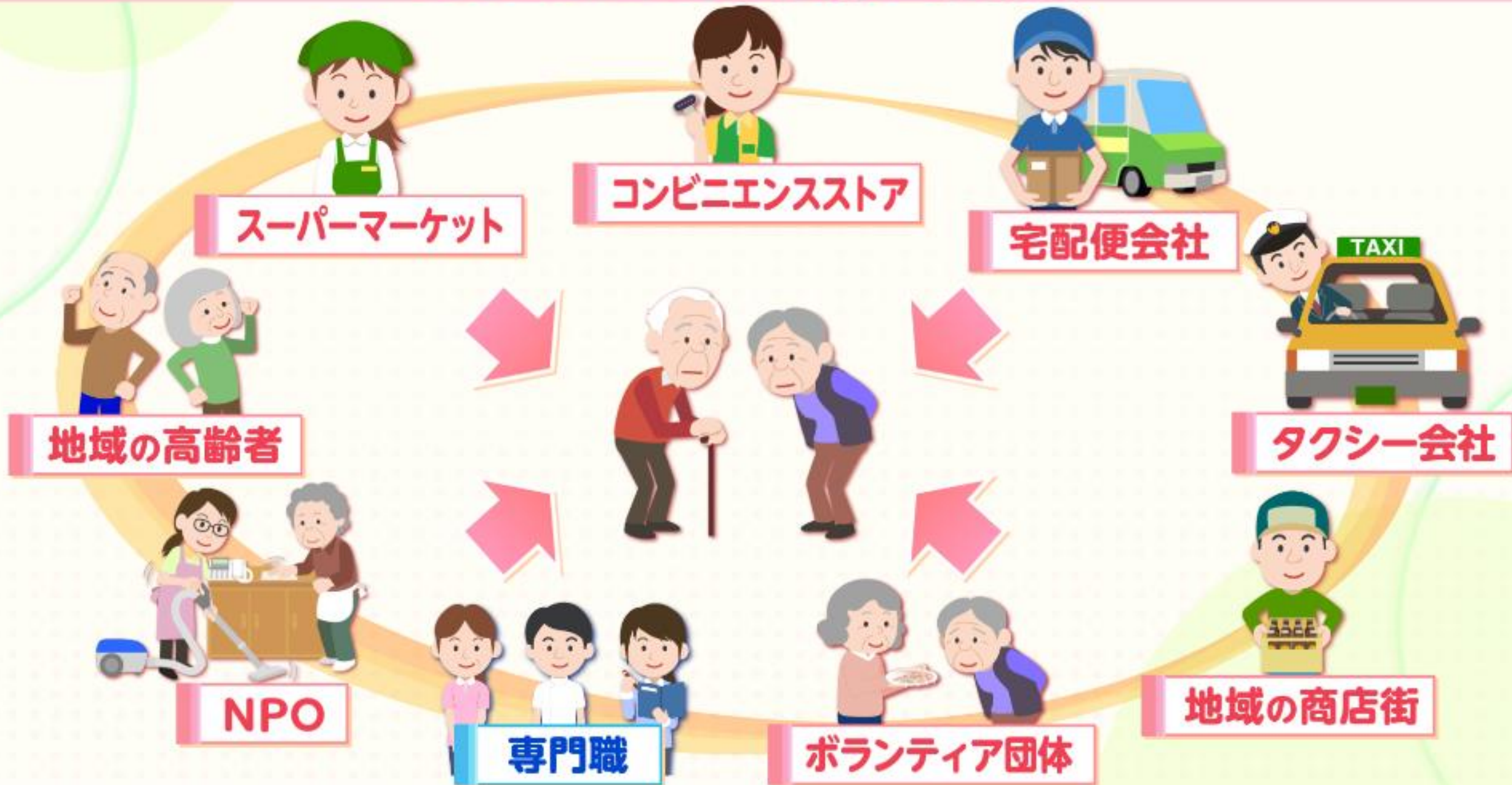


サービスを提供



専門職

これからの高齢者支援



生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加

生活支援サービス

- ニーズに合った多様なサービス種別
- 住民主体、NPO、民間企業等多様な主体によるサービス提供

- ・地域サロンの開催
- ・見守り、安否確認
- ・外出支援
- ・買い物、調理、掃除などの家事支援
- ・介護者支援 等

地域住民の参加

生活支援の担い手としての社会参加



高齢者の社会参加

- 現役時代の能力を活かした活動
- 興味関心がある活動
- 新たにチャレンジする活動

- ・一般就労、起業
- ・趣味活動
- ・健康づくり活動、地域活動
- ・介護、福祉以外のボランティア活動 等

バックアップ

市町村を核とした支援体制の充実・強化

バックアップ

都道府県等による後方支援体制の充実

二刀流！



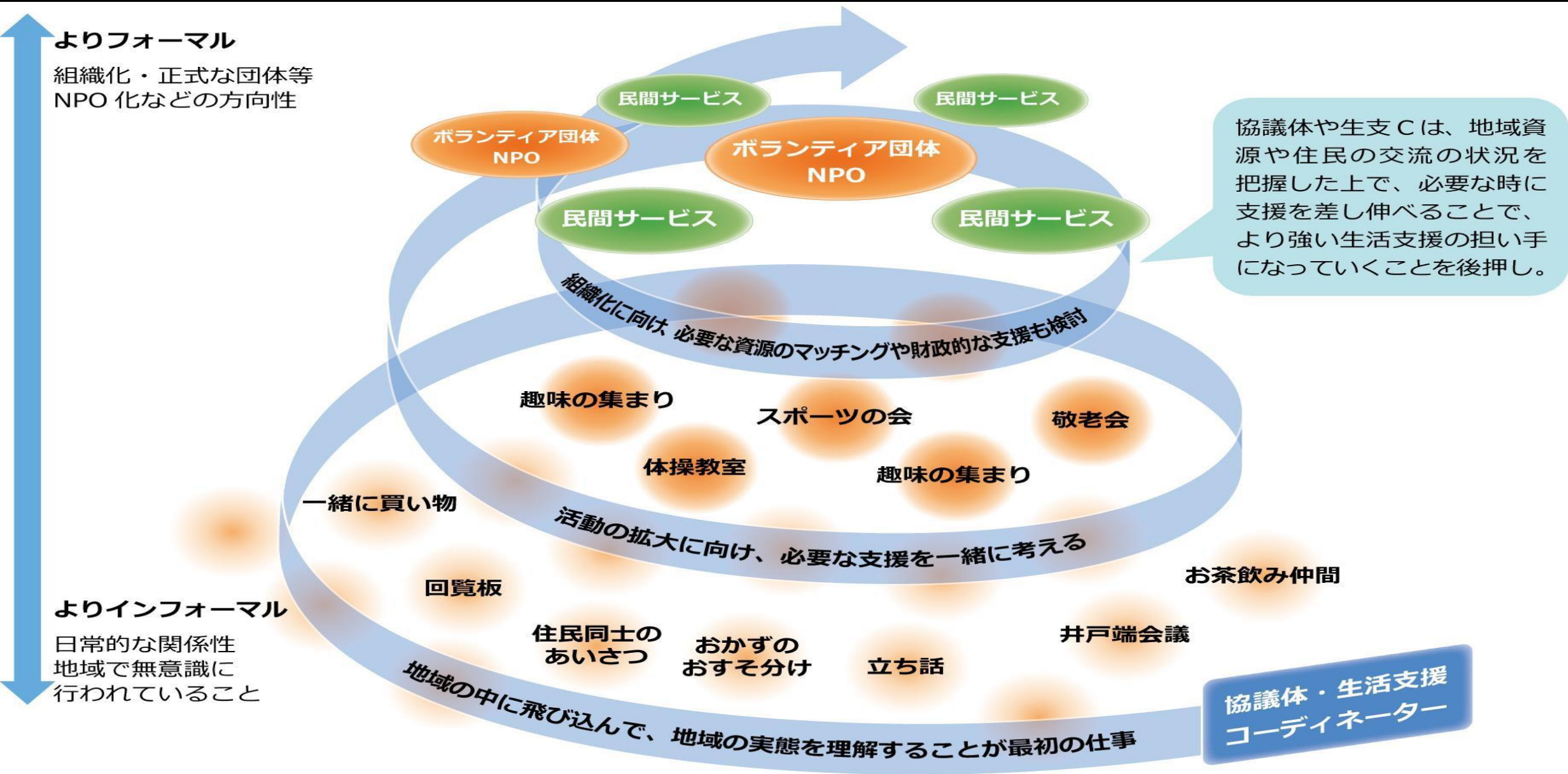
介護予防

総合



日常生活支援

地域で生活支援体制を構築していくために【総合事業における地域づくり 2】



よりフォーマル
組織化・正式な団体等
NPO化などの方向性

よりインフォーマル
日常的な関係性
地域で無意識に
行われていること

協議体や生支Cは、地域資源や住民の交流の状況を把握した上で、必要な時に支援を差し伸べることで、より強い生活支援の担い手になっていくことを後押し。

協議体・生活支援
コーディネーター

地域の中に飛び込んで、地域の実態を理解することが最初の仕事

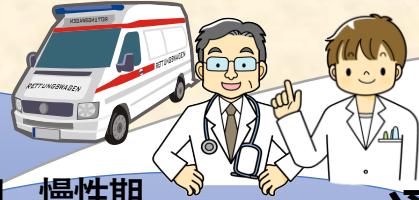
組織化に向け、必要な資源のマッチングや財政的な支援も検討

活動の拡大に向け、必要な支援を一緒に考える

地域包括ケアシステムの姿

病気になったら…

医療



病院：
急性期、回復期、慢性期

通院・入院

日常の医療：

- ・かかりつけ医、有床診療所
- ・地域の連携病院
- ・歯科医療、薬局

介護が必要になったら…

介護



通所・入所

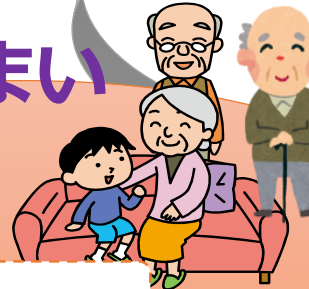
■在宅系サービス：

- ・訪問介護 ・訪問看護 ・通所介護
- ・小規模多機能型居宅介護
- ・短期入所生活介護
- ・福祉用具
- ・24時間対応の訪問サービス
- ・複合型サービス
(小規模多機能型居宅介護+訪問看護) 等

- 施設・居住系サービス
- ・介護老人福祉施設
- ・介護老人保健施設
- ・認知症共同生活介護
- ・特定施設入所者生活介護 等

■介護予防サービス

住まい



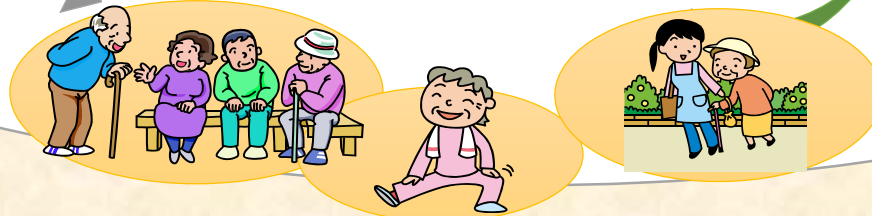
- ・自宅
- ・サービス付き高齢者向け住宅 等

- ・地域包括支援センター
- ・ケアマネジャー



相談業務やサービスの
コーディネートを行います。

いつまでも元気に暮らすために…
生活支援・介護予防



老人クラブ・自治会・ボランティア・NPO 等

※ 地域包括ケアシステムは、おおむね30分以内に必要なサービスが提供される日常生活圏域(具体的には中学校区)を単位として想定

二刀流！



行政

公的支援



地域の人たち

地域の多様な資源

“サービス” 専門職等

“助け合い” なじみの関係

訪問介護



民間サービス
(配食、宅配など)



有償ボランティアによる
生活支援



ボランティアによる
生活支援



ご近所のちょっとした
家事援助



ご近所の見守り



通所介護



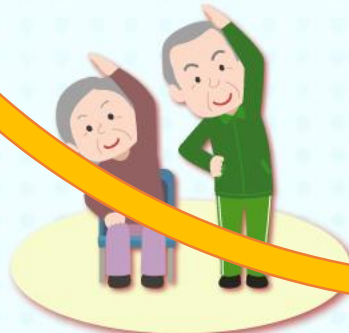
民間サービス
(スポーツジム等)



有償ボランティアによる
ミニデイ



体操サークル



趣味の集い、サロン



お茶飲み仲間



「前向き」と「助け合い」が必要！

→運動と好奇心で元気になる

→地域の  になる

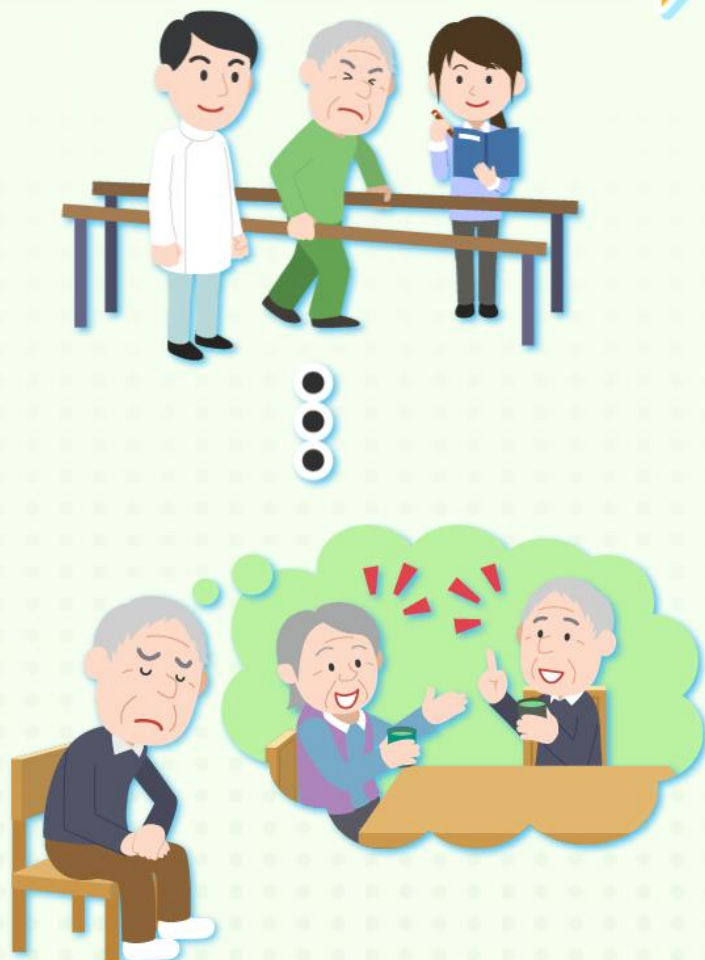
**住民主体で活動することで、
自分も地域も元気に！**

これまでの高齢者支援

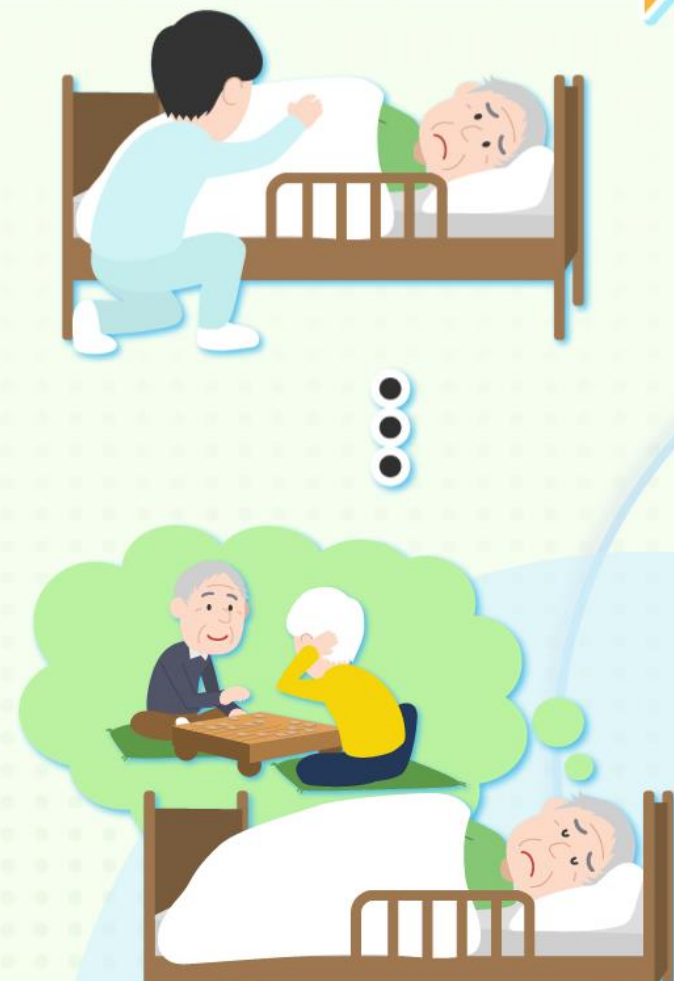
元気なうちは…



支援が必要になると…



介護が必要になると…



これからの高齢者支援

元気なうちは…



支援が必要になっても…



介護が必要になっても…



地域住民で目標を共有する

放っておくと・・・

みんなで目標を共有

自治体

地域づくりの基本方針を示さず、介護保険外の支援・サービスの整備が進まない

地域

行政からの“押しつけ”の負担で疲弊し、自主的な地域づくりが進まない

自治体

地域づくりの基本方針を明示し、ニーズに応じて住民・専門職の取組を支援する

地域

“お互いさまの助け合い”の輪を時間をかけて広げていく

地域のつながりが喪失、人材不足が進む
負の循環

地域のつながりが再生し、専門職も活かされる
正の循環

包括・ケアマネ

介護保険外の支援・サービスが不足し、介護保険への依存が高まる

専門職

専門職でなくても提供できる支援・サービスに従事しなくてはならず、人材が不足する

包括・ケアマネ

住民の支援と専門職サービスを利用に結びつける

専門職

専門職にしか提供できないサービスに特化する



助け合い活動伸長のあり方

未 来

目指す地域像の実現

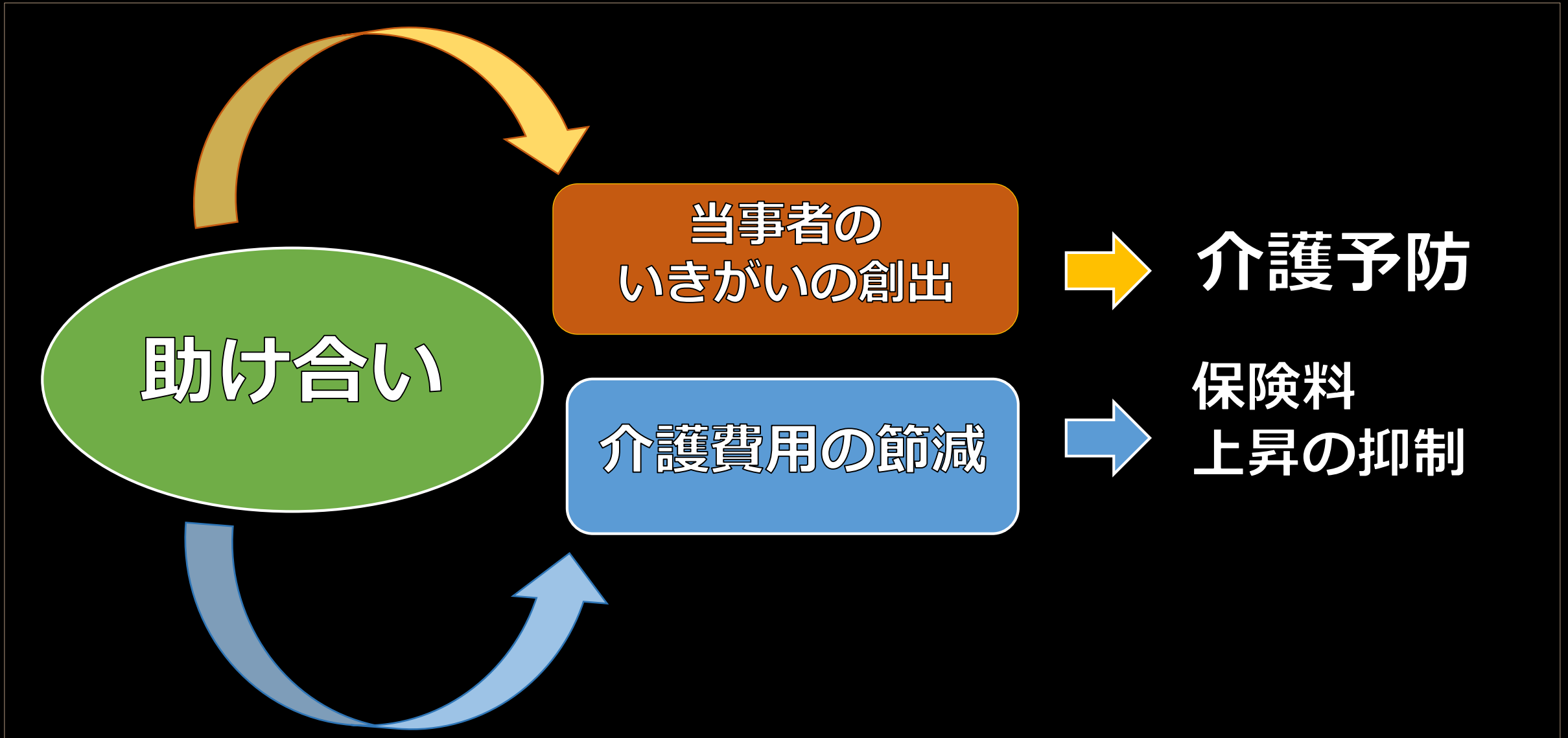
助け合い活動
の広がり

現 在

専門家は、
より専門性を



助け合いを広める効果



「前向き」「助け合い」を広めるための仕組み

「前向き」な活動や「助け合い」
→住民が志で行うもの

でも、一気に広がらない

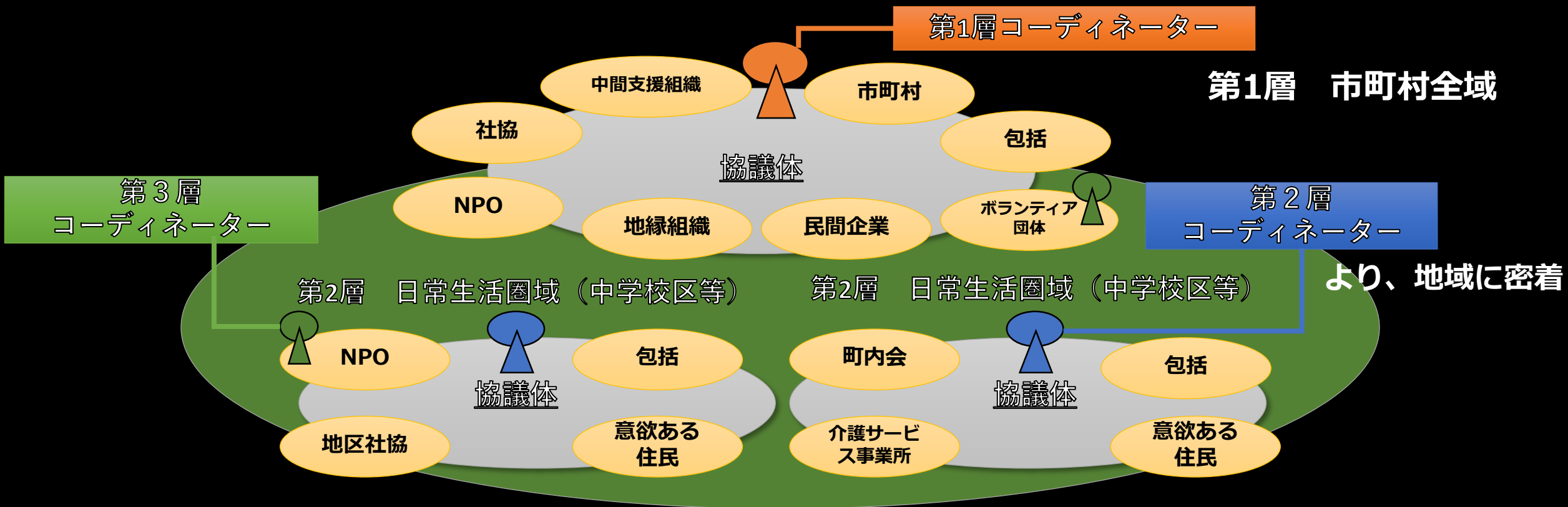
「前向き」な活動や
「助け合い」を広めるために
つくられたのが

生活支援
コーディネーター
(地域支え合い推進員)

協議体

コーディネーター・協議体の配置・構成のイメージ

- コーディネーターとして適切な者を選出するには、「特定の団体における特定の役職の者」のような充て職による任用ではなく、例えば、先に協議体を設置し、サービス創出に係る議論を行う中で、コーディネーターにふさわしい者を協議体から選出するような方法で人物像を見極めたうえで選出することが望ましい。
- 協議体は必ずしも当初から全ての構成メンバーを揃える必要はなく、まずは最低限必要なメンバーで協議体を立ち上げ、徐々にメンバーを増やす方法も有効。
- 住民主体の活動を広める観点から、特に第2層の協議体には、地区社協、町内会、地域協議会等地域で活動する地縁組織や意欲ある住民が構成メンバーとして加わることが望ましい。
- 第3層のコーディネーターは、サービス提供主体に置かれるため、その提供主体の活動圏域によっては、第2層の圏域を複数にまたがって活動が行われたり、時には第1層の圏域を超えた活動が行われたりすることも想定される。



助け合いのある地域を
始めたり、
すすめたり、
育てたり、
広げたり

地域の人々が中心になって



地域づくり

(介護予防・生活支援)

**地域を元気にしていく
旗振り役！
土づくり役！**

まちづくり ・ 地域づくり

コーディネーター&協議体の使命！



コーディネーター&協議体の目線



コーディネーター&協議体を進める姿勢



コーディネーター&協議体の使命！

まちを知る

その気にさせる



コーディネーター&協議体の目線

ダメなサッカー選手は、ボールばかり見ている
一流のサッカー選手は、ピッチ全体を見ている
超一流のサッカー選手は、世界を見ている
では、役所のサッカーチームは？
→ルールブックばかり見ている。

皆さんは、どのレベルを目指しますか？

コーディネーター&協議体を進める姿勢

**問題：英語を話せるようになるために、
次のどちらが効果的ですか？**

- 1. 英語圏の人に、話しかけてみる**
- 2. 英文法のテキストを熟読する**

NPOは「1歩先の視野・半歩先のプログラム」 支援センターは「2歩先の視野・1歩先のプログラム」

支援者・協力者
(市民・企業・行政)

「課題解決や理想実現を
支援・協力したい!」という意思と
資源 (人材、資金、物資、施設、情報、
権限、・・・)

受益者・利用者
(ひと・動植物・自然環境)

過去・現在・近未来
のニーズ

ニーズに効果を生む
合理的なプログラム

現場の過去・現在・未来の
ニーズを見据えた、
効果を生む事業と
組織づくりの支援

受益者・利用者の
過去→現在→近未来の
ニーズに、効果を生む
合理的なプログラム

支援センター

効果を生む
事業&組織づくり

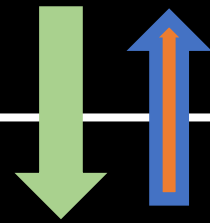
事業系NPO

第2層は「1歩先の視野・半歩先のプログラム」
第1層は「2歩先の視野・1歩先のプログラム」

支援者・協力者

(市民・企業・行政・地縁等)

「課題解決や理想実現を
支援・協力したい!」という意思と資源
(人材、資金、物資、施設、情報、
権限、・・・)



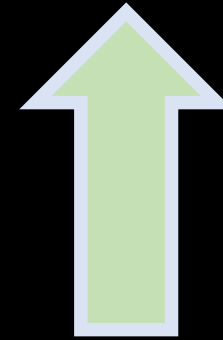
現場の過去・現在・未来の
ニーズを見据えた、
効果を生む事業づくり
組織づくりの支援

第1層コーディネーター

受益者・利用者

(困っている高齢者など)

過去・現在・近未来
のニーズ

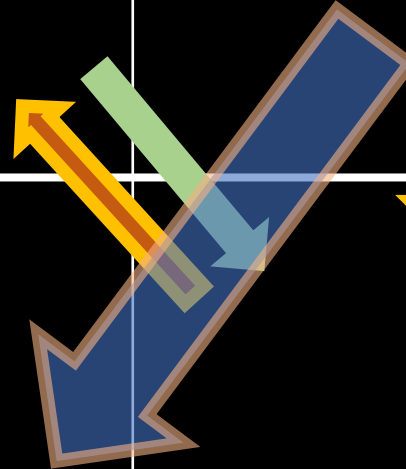


ニーズに効果を生む
合理的なプログラム


受益者・利用者の
過去→現在→近未来の
ニーズに、効果を生む
合理的なプログラム

第2層コーディネーター

効果を生む
事業&組織づくり



**まちを知ること、その気にさせること、
視野を広くすることも、
いきなり話しかけるのも、
生活支援コーディネーターだけじゃ無理！**



協議体とチームになる



~~協議体は、
会議の場ではありません。
形は、自由です！~~

リーダー育成型



地域の中で役割を持ちたい住民を集める

勉強会型



特定のテーマに関心をもつ住民を集める

集いの場型



住民の仲良しグループを活用する

地域の課題について話し合うようになってきたら

協議体へ

地域づくりの主役は誰？

「地域に住んでいる人たち」

だから・・・

住民は、

市町村の下請け

ではなく・・・

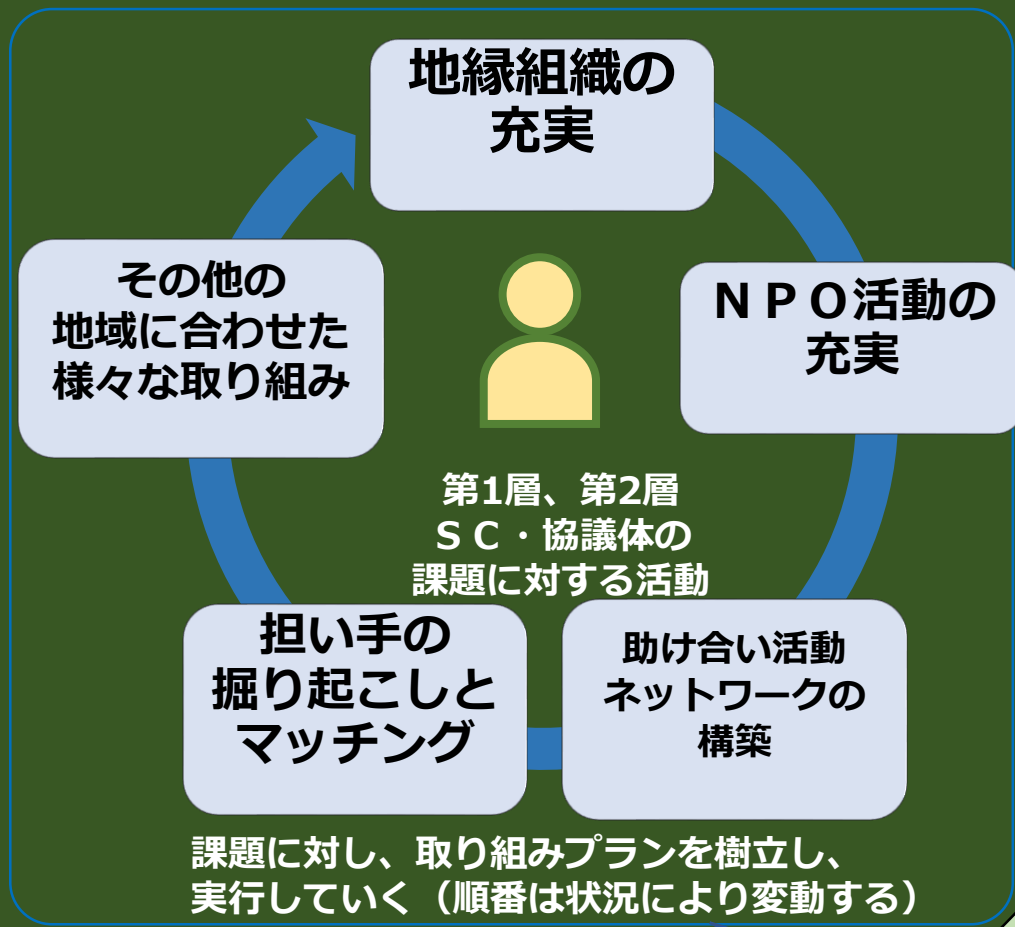
活動内容を決める

市町村は、

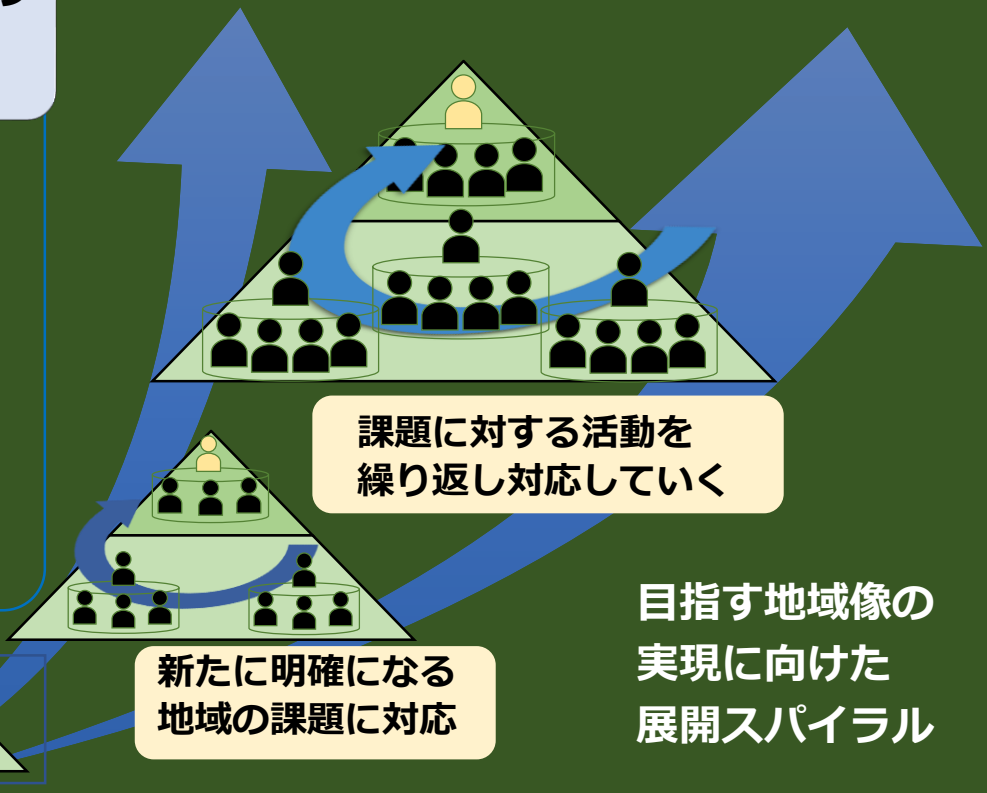
活動内容を決める

ではなく・・・

住民団体を
側面的に支援する



目指す地域像の実現



初期段階の地域の課題に対応